

議題（１）

（仮称）平和資料館のコンセプト・建設場所

（参考資料）

北九州市の空襲被害

北九州の主な空襲（「北九州市史」より）

1 主な空襲

（1）昭和19年6月16日（北九州全域）

- ・ B29による日本本土空襲の最初のもの。
- ・ 午前零時24分空襲警報が発令。空襲警報発令後20数分後には最初の爆弾が若松に投下され、その後約2時間にわたり、北九州5市は47機のB29による波状攻撃を受けた。
- ・ B29による北九州初空襲のニュースは、ワシントンでは国会の議事を中断して、上院・下院で発表され、新聞も全段抜き出しの見出しで報道した。

【参考：被害状況（各『市史』等から）】

区分	門司	小倉	若松	八幡	戸畑	計
死者	36	94	5	135	52	322
重傷	28	68	10	82	5	193
軽傷	36	88	13	125	22	284
行方不明	0	0	0	0	1	1
全壊	24	81	13	168	12	298
半倒壊	37	146	12	112	32	348

（2）昭和20年6月29日（門司）

- ・ 午前零時15分から2時ごろまでB29が来襲。
- ・ 2分から5分おきに1機または2機で波状的に市内中心部、海岸倉庫一帯に大小の焼夷弾攻撃を加えてきた。
- ・ 投下された爆弾のトン数は626.9トンに達した。
- ・ 死者55人、重傷者92人、建物全焼3,616戸、半焼99戸の被害をだした。

（3）昭和20年8月8日（八幡・若松・戸畑）

- ・ 午前10時、B29約120機が来襲。
- ・ 八幡・若松・戸畑は1時間にわたる焼夷弾攻撃に見舞われた。
- ・ 八幡では八幡製鐵所の工場や宿舎、中央町商店街をはじめ、前田、尾倉など多数焼失し、約2,500人が死傷、14,000戸が焼け、52,562人が焼け出された。
- ・ 若松では西本町、藤ノ木今光、東二島、三菱社宅などが焼失し、死亡81人、重傷43人、全焼926戸、半焼24戸。
- ・ 戸畑では大正町日鉄作業所正門前、天籟寺区鞆ヶ谷、日鉄戸畑作業所構内などに焼夷弾が投下され、33人が死亡、30人が負傷、342戸が焼失した。

2 戦災の状況

北九州の5市は今次の大戦では一様に罹災した。しかし、表で明らかなように、罹災規模にかなりの差がみられる。都市の性格に起因して爆撃の規模と頻度が違っていることに起因するもので、当時それぞれの都市が軍事的にどのような役割を担っていたかを示している。

最も罹災被害の大きかった八幡市の場合は主力工場であった八幡製鐵所と連鎖する周辺市街地に、軍事物資の生産機能を破壊する目的で爆弾が集中したからである。また、門司区の場合は、軍事物資や兵員はもとより、あらゆる物資の流通を担う港としての機能をまひさせ、さらには海上交通の要衝である関門海峡の封鎖を目的としたものであった。

いずれにしても、5市は北九州工業地帯を構成していて、我が国の重工業の中核として重要な役割を果たしていたことから、戦果を免れることはできなかった。

【参考：5市の罹災状況（建設省編『戦災復興誌』第1巻から）】

区分	罹災面積	罹災人口	罹災戸数	死者	負傷者
門司市	349,000 坪	18,902	4,436	110	217
小倉市	1,000 坪	162	76	23	31
戸畑市	55,500 坪	3,178	674	103	54
八幡市	922,000 坪	54,362	14,380	1,996	956
若松市	236,000 坪	4,692	1,050	19	52
計	1,563,500 坪	81,296	20,616	2,251	1,310